

平成 28 年度 介護予防活動普及展開事業
報告書

平成 29（2017）年 3 月

株式会社三菱総合研究所

目次

| | |
|--|-----------|
| 第1章 事業の概要 | 5 |
| 1. 事業の目的 | 5 |
| 2. 事業の実施内容 | 6 |
| (1) 介護予防活動普及調査事業 | 6 |
| (2) 介護予防活動普及研修事業 | 6 |
| 3. 事業の実施体制 | 7 |
| (1) 検討会議の検討体制・検討経緯 | 7 |
| (2) 自治体ワーキングの検討体制・検討経緯 | 9 |
| (3) 専門職ワーキングの検討体制・検討経緯 | 10 |
| (4) 事業所ワーキングの検討体制・検討経緯 | 12 |
| 第2章 介護予防活動普及調査事業（手引き案の検討） | 14 |
| 1. 自治体向け手引きの構成案 | 14 |
| (1) 市町村向け手引きの構成案 | 14 |
| (2) 都道府県向け手引きの構成案 | 15 |
| 2. 専門職向け手引きの構成案 | 16 |
| 3. 事業所向け手引きの構成案 | 17 |
| 第3章 介護予防活動普及研修事業（試行的研修会の実施） | 18 |
| 1. 開催目的 | 18 |
| 2. 開催日時・場所・参加者数 | 18 |
| (1) 開催日時 | 18 |
| (2) 開催場所 | 18 |
| (3) 参加者数 | 19 |
| 3. 研修カリキュラム（プログラム） | 19 |
| 4. アンケート結果 | 22 |
| (1) 試行的研修会参加者の基本情報 | 22 |
| (2) 試行的研修会参加者の感想 | 24 |

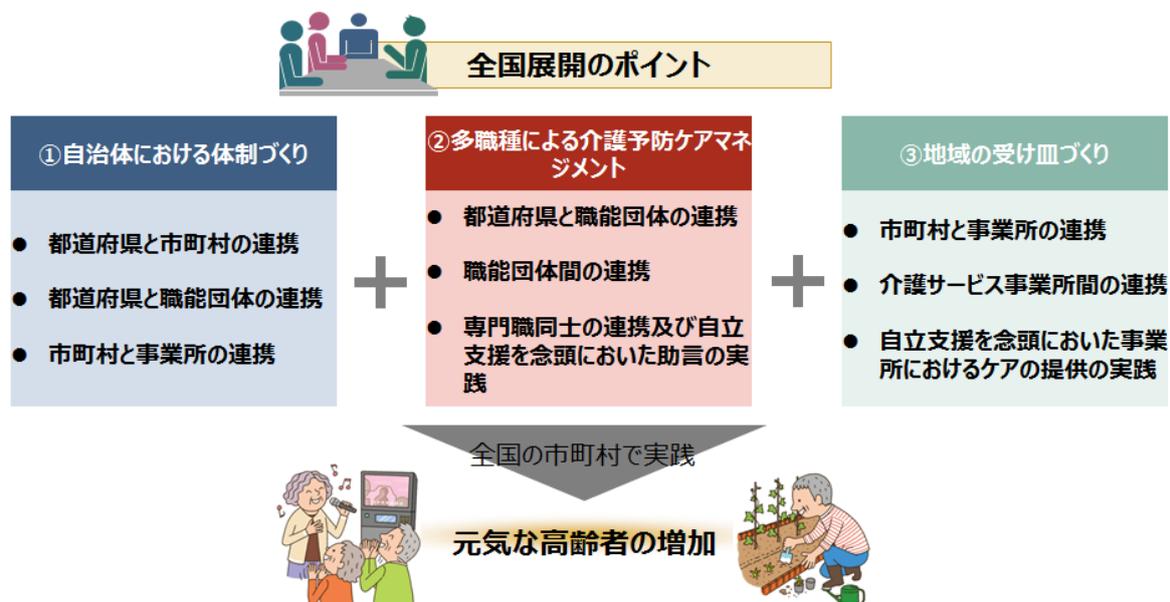
第1章 事業の概要

1. 事業の目的

介護予防活動普及展開事業（以下、本事業）は、生涯現役社会を実現するため、高齢者の自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントを、「地域ケア会議」というツールを通じて先行的に展開している自治体の事例を参考にした介護予防の仕組みを全国展開し、元気な高齢者を増やすことを目的として実施した。

具体的には、このような介護予防の仕組みを展開するための、①自治体における体制づくり、②多職種による介護予防ケアマネジメント、③地域の受け皿づくりが全国の市町村で実践できるよう技術的な支援を行った。

図表 1 全国展開のポイント



2. 事業の実施内容

全国で、①自治体における体制づくり、②多職種による介護予防ケアマネジメント、③地域の受け皿づくりの取組を実践するため、先行している事例から普遍的なノウハウを抽出し、実践につなげるための技術的な支援を、以下の（１）（２）の事業を通じて実施した。

（１） 介護予防活動普及調査事業

高齢者の自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントを、「地域ケア会議」というツールを通じて先行的に展開している自治体の事例を参考にした介護予防の仕組みが、全国の市町村において実践できるよう、普遍的なノウハウを抽出し、手引き案を作成した。

また、都道府県との連携の下、手引き案に沿った取組を全国の市町村が実践できるよう、研修・フォローアップのためのカリキュラム案を作成した。

（２） 介護予防活動普及研修事業

上記研修カリキュラム案を用いた研修会を試行的に開催した。

図表 2 事業の実施内容



3. 事業の実施体制

本事業の遂行にあたっては、

- 本事業の目的・体制等の全体計画・方針の作成
- 本事業の成果物（手引き案・研修カリキュラム）についての作成方針の作成
- 本事業の成果物（手引き案・研修カリキュラム）の内容確認・精査
- 本事業の成果物（手引き案・研修カリキュラム）を用いて試行的に開催する研修会の方針の作成

等を行うことを目的に、検討会議を設置した。

手引き案・研修カリキュラムの作成にあたっては、検討会議の下部組織として、それぞれの対象に応じて、3つのワーキンググループを設置した。

(1) 検討会議の検討体制・検討経緯

検討会議の体制・検討経緯は以下のとおり（★は委員長）。

図表 3 検討会議 委員

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 所属先・役職 | 役割・本事業での位置づけ |
|-----|------------------|--|--|
| 1 | ★川越 雅弘 | 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部 部長 | ・検討会議委員長&専門職WG座長 ・大分県における地域ケア会議の県内展開の際の助言者 |
| 2 | 佐藤 孝臣 | デイサービスセンター楽 @大分 (株) ライフリー 代表取締役 | ・事業所WG座長 ・大分県における地域ケア会議の実践者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル執筆者 |
| 3 | 鈴木 邦彦 | 日本医師会 常任理事 | ・医療介護連携を念頭に地域ケア会議を全国展開していく際の助言者 |
| 4 | 高橋 浩也 | 山形県健康福祉部 健康長寿推進課 課長 | ・地域ケア会議を全国展開していく上で、都道府県担当者の立場としての助言者 |
| 5 | 東内 京一 | 埼玉県和光市保健福祉部 部長 | ・自治体WG座長 ・埼玉県和光市における地域ケア会議の実践者 |
| 6 | 服部 真治 | 一般財団法人 医療経済 研究・社会保険福祉協会 | ・地域ケア会議を全国展開していく上で、新しい総合事業と |

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 所属先・役職 | 役割・本事業での位置づけ |
|-----|------------------|-------------------|---|
| | | 医療経済研究機構 研究員 | の関わりの中でどのように実践していくかについての助言者 |
| 7 | 村井 千賀 | 石川県立高松病院 作業療法士 | ・ 地域ケア会議を全国展開していく上で、地域リハビリテーションとの関わりの中でどのように展開していくかについての助言者 |

図表 4 検討会議の開催時期と議題

| 回 | 時期 | 議 題 |
|-------------|---|---|
| 第 1 回 | 平成 28 年 7 月 29 日 (金) 10:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の目的・体制について ・ 各 WG における検討内容について <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体向け WG について ② 専門職向け WG について ③ 事業所向け WG について |
| 第 2 回 | 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 19:00~21:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ワーキングにおける主なご意見について ・ 各手引き骨子、素案について <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体向け手引きについて（都道府県向け／市町村向け） ② 専門職向け手引きについて ③ 事業所向け手引きについて ・ 今後のスケジュールについて |
| 第 3 回 | 平成 29 年 2 月 8 日 (水) 10:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各手引き案について <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体向け手引き案について（都道府県向け／市町村向け） ② 専門職向け手引き案について ③ 事業所向け手引き案について ・ 試行的研修会開催概要案について |
| 第 4 回 | 平成 29 年 3 月 1 日 (水) 19:00~21:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 試行的研修会の開催報告 ・ 各手引き案について <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体向け手引き案について（市町村向け／都道府県向け） ② 専門職向け手引き案について ③ 事業所向け手引き案について ・ 今後の手引きの更新スケジュールについて |

(2) 自治体ワーキングの検討体制・検討経緯

自治体ワーキングの体制・検討経緯は以下のとおり（★は座長）。

図表 5 自治体ワーキング 委員

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 所属先・役職 | 役割・本事業での位置づけ |
|-----|------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 江藤 修 | 大分県杵築市 福祉推進課 課長 | ・ 大分県における地域ケア会議の実践者 |
| 2 | 近藤 尚己 | 東京大学大学院医学研究 科 准教授 | ・ 介護予防活動の事業評価に関する助言者 |
| 3 | 鈴木 淳子 | 埼玉県福祉部地域包括ケ ア課 地域包括ケア担当 主幹 | ・ 埼玉県における自立促進モデル事業（地域ケア会議の立上げを実施）の担当者 |
| 4 | 田口 孝行 | 埼玉県立大学 教授 | ・ 埼玉県の介護予防活動の事業評価に関する助言者 |
| 5 | ★東内 京一 | 埼玉県和光市保健福祉部 部長 | ・ 埼玉県和光市における地域ケア会議の実践者 |
| 6 | 渡邊 康弘 | 大分県福祉保健部高齢者 福祉課 地域包括ケア推 進班 主幹 | ・ 大分県における地域ケア会議の普及促進の実践者 |
| 7 | 石川 英昭 | 愛媛県保健福祉部生きが い推進局長寿介護課 課長 | ・ モデル県。オブザーバーとして参加。 |
| 8 | 小村 利之 | 長崎県福祉保健部 長寿社会課長 | ・ モデル県。オブザーバーとして参加。 |
| 9 | 菱谷 文彦 | 大阪府高齢介護室 介護支援課長 | ・ モデル県。オブザーバーとして参加。 |

図表 6 自治体ワーキングの開催時期と議題

| 回 | 時期 | 議 題 |
|-------------|--------------------------------------|--|
| 第 1 回 | 平成 28 年 10 月 5 日 (水) 19:00~21:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体計画案について ・ 自治体向けガイドライン骨子案について ・ 自治体向け研修カリキュラム骨子案について ・ 今後の検討の進め方について |
| 第 2 回 | 平成 28 年 11 月 28 日 (月) 19:00~21:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体向け手引きについて (都道府県向け) ・ 自治体向け手引きについて (市町村向け) ・ 今後のスケジュールについて |
| 第 3 回 | 平成 28 年 12 月 27 日 (火) 10:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体向け手引き案について (都道府県向け) ・ 自治体向け手引き案について (市町村向け) ・ 今後のスケジュールについて |

(3) 専門職ワーキングの検討体制・検討経緯

専門職ワーキングの体制・検討経緯は以下のとおり (★は座長)。

図表 7 専門職ワーキング 委員

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 推薦団体 | 所属先・役職 | 役割・本事業での 位置づけ |
|-----|------------------|-----------|----------------------------------|---|
| 1 | 岩下 誠 | 日本薬剤師会 | 豊里薬局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能団体の代表及び地域ケア会議を全国展開していく上で、薬剤師の立場としての助言者 |
| 2 | ★川越 雅弘 | — | 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部 部長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議委員長&専門職WG座長 ・ 大分県における地域ケア会議の県内展開の際の助言者 |
| 3 | 黒羽 真美 | 日本言語聴覚士協会 | 日本言語聴覚士協会 理事 (介護老人保健施設 マロニエ苑) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職能団体の代表及び地域ケア会議を全国展開していく上で、リハ職の立場としての助言者 |
| 4 | 斉藤 秀之 | 日本理学療法士協会 | 日本理学療法士協会 副会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ (同上) リハ職の立場としての助言者 |

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 推薦団体 | 所属先・役職 | 役割・本事業での 位置づけ |
|-----|------------------|-------------|-------------------|--------------------------|
| 5 | 齊藤 正身 | 日本医師会 | 真正会霞ヶ関南病院 理事長 | ・ (同上) 医師の立場としての助言者 |
| 6 | 座小田 孝安 | 日本作業療法士協会 | 日本作業療法士協会 常務理事 | ・ (同上) リハ職の立場としての助言者 |
| 7 | 下浦 佳之 | 日本栄養士会 | 日本栄養士会 常務理事 | ・ (同上) 栄養士の立場としての助言者 |
| 8 | 高野 直久 | 日本歯科医師会 | 日本歯科医師会 常務理事 | ・ (同上) 歯科医師の立場としての助言者 |
| 9 | 武井 典子 | 日本歯科衛生士会 | 日本歯科衛生士会 会長 | ・ (同上) 歯科衛生士の立場としての助言者 |
| 10 | 原田 重樹 | 日本介護支援専門員協会 | 日本介護支援専門員協会 副会長 | ・ (同上) 介護支援専門員の立場としての助言者 |
| 11 | 清末 敬一郎 | | 大分県福祉保健部 高齢者福祉課 長 | ・ 大分県における地域ケア会議の普及促進の実践者 |

図表 8 専門職ワーキングの開催時期と議題

| 回 | 時期 | 議 題 |
|-----|-------------------------------|---|
| 第1回 | 平成28年9月20日(火) 10:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体計画案について ・ 和光市・大分県の取組について ・ 専門職WGのガイドライン骨子案について ・ 今後の検討の進め方について |
| 第2回 | 平成28年11月30日(水) 13:00~15:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職向け手引きについて ・ 今後のスケジュールについて ・ 事務連絡 |
| 第3回 | 平成28年12月27日(水) 13:00~15:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職向け手引き案について ・ 今後のスケジュールについて |

(4) 事業所ワーキングの検討体制・検討経緯

事業所ワーキングの体制・検討経緯は以下のとおり（★は座長）。

図表 9 自治体ワーキング 委員

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 所属先・役職 | 役割・本事業での位置づけ |
|-----|------------------|--|---|
| 1 | 有松 ひとみ | 大分県歯科衛生士会 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、歯科衛生士の立場としての助言者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル検討のメンバー |
| 2 | 井上 茂樹 | 杵築速見薬剤師会 | 地域ケア会議を地域で展開していく上で、薬剤師の立場としての助言者 |
| 3 | 江田 佳子 | 長崎県佐々町 地域包括支援センター | <ul style="list-style-type: none"> ・一般介護予防事業実践者 |
| 4 | 川越 雅弘 | 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部 部長 | <ul style="list-style-type: none"> ・検討会議委員長&専門職WG座長 ・大分県における地域ケア会議の県内展開の際の助言者 |
| 5 | 河野 礼治 | 大分県理学療法士協会 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、リハ職の立場としての助言者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル検討のメンバー |
| 6 | ★佐藤 孝臣 | デイサービスセンター楽 @大分 (株) ライフリー 代表取締役 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業所WG座長 大分県における地域ケア会議の実践者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル執筆者 |
| 7 | 高森 聖人 | 大分県作業療法協会 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、リハ職の立場としての助言者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル検討のメンバー |

| No. | 氏名 (敬称略・50音順) | 所属先・役職 | 役割・本事業での位置づけ |
|-----|------------------|----------------------|---|
| 8 | 田中 明美 | 奈良県生駒市福祉保健部 介護保険課 | ・サービスC(短期集中介護予防サービス)の実践者 |
| 9 | 濱田 美紀 | 大分県栄養士会 理事 | ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、栄養士の立場としての助言者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル検討のメンバー |
| 10 | 原田 重樹 | 日本介護支援専門員協会 副会長 | ・地域ケア会議を全国展開していく上で、介護支援専門員の立場としての助言者 |
| 11 | 吉賀 攝 | 大分県医師会 常任理事 | ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、医師の立場としての助言者 |
| 12 | 吉田 玲子 | 大分県言語聴覚士協会 副会長 | ・地域ケア会議を地域で展開していく上で、リハ職の立場としての助言者 ・大分県における通所介護事業所向けのマニュアル検討のメンバー |

図表 10 事業所ワーキングの開催時期と議題

| 回 | 時期 | 議 題 |
|-----|------------------------------|--|
| 第1回 | 平成28年9月20日(火) 19:00~21:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体計画案について ・ 事業所WGのガイドライン骨子案について ・ 今後の検討の進め方について |
| 第2回 | 平成28年12月16日(金) 9:30~11:30 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ワーキングにおける主なご意見について ・ 事業所向け手引き骨子について ・ 事業所向け手引き素案について ・ 今後のスケジュールについて |
| 第3回 | 平成29年1月31日(火) 10:00~12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所向け手引き案について ・ 今後のスケジュールについて |

第2章 介護予防活動普及調査事業（手引き案の検討）

介護予防活動普及調査事業においては、第1章「3. 事業の実施体制」に基づき、それぞれの関係者向けの手引き案及び研修カリキュラム案を作成した。

1. 自治体向け手引きの構成案

（1）市町村向け手引きの構成案

市町村向け手引きの構成案は以下のとおりとした。

| |
|-----------------------------|
| 目次 |
| はじめに |
| 1 本手引きの背景・目的 |
| （1） 介護予防活動普及展開事業と地域ケア会議 |
| （2） 介護予防のための地域ケア会議について |
| （3） 地域ケア会議の実際 |
| （4） 本手引きの活用方法 |
| 2 地域ケア会議の全体フロー |
| 3 地域ケア会議立ち上げのための体制整備 |
| （1） 市町村における体制整備 |
| （2） 都道府県との連携強化 |
| （3） 地域ケア会議に関する説明会の開催 |
| （4） 地域ケア会議に関する説明会の開催 |
| （5） 地域ケア会議開催までの準備支援 |
| 4 地域ケア会議開催に向けた実施事項 |
| （1） 地域ケア会議開催前の実施事項 |
| （2） 地域ケア会議当日の実施事項 |
| （3） 地域ケア会議開催後の実施事項 |
| （4） 地域ケア会議立ち上げの実際 |
| （5） 地域ケア会議で把握された行政課題と対応策の検討 |
| 5 地域ケア会議を定着・充実するための方法 |
| （1） 市町村内の全圏域で立ち上げるための戦略策定 |
| （2） 住民への普及啓発 |

(2) 都道府県向け手引きの構成案

都道府県向け手引きの構成案は以下のとおりとした。

目次

はじめに

1 本手引きの背景・目的

- (1) 介護予防活動普及展開事業と地域ケア会議
- (2) 介護予防のための地域ケア会議について
- (3) 地域ケア会議の実際
- (4) 本手引きの活用方法

2 地域ケア会議の全体フロー

3 地域ケア会議立ち上げのための体制整備

- (1) 都道府県における体制整備
- (2) 市町村との連携内容
- (3) 職能団体との連携強化

4 地域ケア会議立ち上げのための市町村支援

- (1) ○○県の事例
- (2) ○○県の事例
- (3) ○○県の事例

2. 専門職向け手引きの構成案

専門職向け手引きの構成案は以下のとおりとした。

目次

はじめに

1 本手引きの背景・目的

- (1) 介護予防活動普及展開事業と地域ケア会議
- (2) 介護予防のための地域ケア会議について
- (3) 地域ケア会議の実際
- (4) 本手引きの活用方法

2 地域ケア会議の全体フロー

3 地域ケア会議における専門職の役割

- (1) 専門職の役割と心構え
- (2) 地域ケア会議における専門職による助言
- (3) 職種間の連携
- (4) 事例紹介

4 地域の介護予防の推進に向けた専門職（職能団体）の役割

- (1) 職能団体としての行政との関わり
- (2) 介護予防における専門職・職能団体の役割と取組の意義
- (3) 職能団体間の連携
- (4) 事例紹介

3. 事業所向け手引きの構成案

事業所向け手引きの構成案は以下のとおりとした。

目次

はじめに

1 本手引きの背景・目的

- (1) 介護予防活動普及展開事業と地域ケア会議
- (2) 介護予防のための地域ケア会議について
- (3) 地域ケア会議の実際
- (4) 本手引きの活用方法

2 地域ケア会議の全体フロー

3 通所介護事業所と地域ケア会議の関わり

- (1) 通所介護事業所と地域ケア会議の関わり
- (2) 地域ケア会議に向けた準備事項
- (3) 地域ケア会議当日の実施事項
- (4) 地域ケア会議開催後の実施事項

4 生活課題の解決を念頭に置いたサービスの提供

- (1) 生活課題の解決を念頭に置いたサービス提供の視点
- (2) 生活課題の解決を念頭に置いたサービス提供の流れ
- (3) 事例の紹介
- (4) 個人情報管理

5 生活課題の解決に向けた通所型サービスCのサービス提供について

- (1) 通所型サービスCとは
- (2) 通所型サービスCの提供の流れと留意事項
- (3) プログラム例

6 参考資料

第3章 介護予防活動普及研修事業（試行的研修会の実施）

介護予防活動普及研修事業においては、介護予防活動普及調査事業で作成した手引き案・研修カリキュラム案を基にした試行的研修会を実施した。

1. 開催目的

介護予防のための地域ケア会議の概要・要点をおさえるとともに、司会者の養成を行うことを目的として実施した。

2. 開催日時・場所・参加者数

（1）開催日時

平成 29 年 2 月 20 日（月）10：00～16：45

（2）開催場所

ベルサール三田 Room2 & 3

（東京都港区三田 3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館 1F）

(3) 参加者数

参加者数は79名であった。参加者の詳細は以下のとおりであった。

3. 研修カリキュラム（プログラム）

研修カリキュラム（プログラム）は以下のとおりであった。

図表 11 試行的研修会 開催プログラム

| 時間 | 項目 | 内容 ねらい | 教材等 | 講師 |
|----------------------|---------------------------------|--|--|--------------------------------|
| 10:00~10:10 (10分) | 開会挨拶 行政説明 | <ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明・試行的研修会のねらいを伝える | <ul style="list-style-type: none"> ● 厚生労働省説明資料（資料4） | 厚生労働省老健局 老人保健課 課長補佐 井口豪氏 |
| 10:10~11:00 (50分) | 講義「保険者(自治体)機能と地域ケア会議のあり方について」 | <ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防のための地域ケア会議のイメージを学ぶ ● 手引きにより、介護予防のための地域ケア会議の概要について理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ● 東内部長講義資料（資料5） | 和光市保健福祉部 部長 東内京一氏 |
| 11:00~11:10 | 休憩 | | | |
| 11:10~11:45 (35分) | 演習1「介護予防のための課題抽出」 (個人ワーク) | <ul style="list-style-type: none"> ● 事例（W氏）を利用して、介護予防のためのアセスメントの実際について理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ● 川淵センター長講義資料（資料6） ● 演習用シート（資料7~資料12） ● 課題整理総括表（W氏）（資料13） | 和光市中央地域包括支援センター センター長 川淵由美氏 |
| 11:45~12:00 (15分) | (グループワーク) | (グループ内で共有) | <ul style="list-style-type: none"> ● 模造紙・ペン | 同上 |
| 12:00~13:00 | 昼食休憩 | | | |
| 13:00~13:15 (15分) | 行政説明「地域ケア会議開催前・当日・開催後の実施事項について」 | <ul style="list-style-type: none"> ● 手引きにより、市町村における介護予防のための地域ケア会議開催前・当日・開催後の実施事項について理解を深める | <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業で作成中の手引きについて（資料14-1） ● 市町村向け手引き（案）（資料14-2） | 厚生労働省老健局 総務課 課長補佐 石井義恭氏 |
| 13:15~14:30 (75分) | 演習2「地域ケア会議前の準備」(グループワーク) | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域ケア会議のDVDを視聴 ● 事例（T氏）を利用して包括内でGW ● 課題目標の妥当性を確認 | <ul style="list-style-type: none"> ● DVD（平成26年度地域ケア会議運営に係る実務者研修） ● 演習用事例（資料15） ● 演習用シート（資料7~資料9） ● 課題整理総括表（T氏）（資料15） ● 模造紙・ペン | 和光市中央地域包括支援センター センター長 川淵由美氏 |
| 14:30~14:40 | 休憩 | | | |

| 時間 | 項目 | 内容 ねらい | 教材等 | 講師 |
|----------------------|-------------------------------|---|---|--------------------------------|
| 14:40~16:00 (80分) | 演習3「地域ケア会議 当日」 (ロールプレイ) | <ul style="list-style-type: none"> ● 役を決めて地域ケア会議のコーディネーターを経験する(30分の会議×1回=30分) ● その後、代表グループ1つが発表(30分)、東内部長がコーディネーター、川淵センター長がケアマネジャーとして参加する ● 意見交換、講評(15分) | <ul style="list-style-type: none"> ● 助言者の発言例(資料17) | 和光市中央地域包括支援センター センター長 川淵由美氏 |
| 16:00~16:30 (30分) | 振り返り・発表 | <ul style="list-style-type: none"> ● 以下の点について発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修で気づいた点 ・ 介護予防のための地域ケア会議を立ち上げるための課題 | | 同上 |
| 16:30 | 閉会 | | | |

図表 12 当日資料一覧

- ・ 資料 1 平成 28 年度介護予防活動普及展開事業 試行的研修会 プログラム
- ・ 資料 2 平成 28 年度介護予防活動普及展開事業 試行的研修会 座席表
- ・ 資料 3 平成 28 年度介護予防活動普及展開事業 試行的研修会 参加者名簿
- ・ 資料 4 厚生労働省 井口課長補佐 説明資料 (PPT) 「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案のポイント」
- ・ 資料 5 東内部長講義資料 (PPT) 「保険者 (自治体) 機能と地域ケア会議のあり方について」
- ・ 資料 6 川淵センター長講義資料 (PPT) 「平成 28 年度介護予防活動普及展開事業 試行的研修会」
- ・ 資料 7 因子分解からの自立支援マネジメントを理解しよう (A3 両面 1 枚)
- ・ 資料 8 和光市コミュニティケア会議ケース検討会 アセスメントシート (A4 両面 1 枚)
- ・ 資料 9 生活機能評価表 (A4 両面 1 枚)
- ・ 資料 10 課題整理総括表 (A4 横 1 枚)
- ・ 資料 11 和光市 生活支援度調査票 (フェイスシート) (A4 両面 1 枚)
- ・ 資料 12 和光市 コミュニティケア会議 (中央会議) 進行表 (A4 縦 1 枚)
- ・ 資料 14-1 本事業で作成中の手引きについて (PPT)
- ・ 資料 14-2 介護予防活動普及展開事業 市町村向け手引き (案) (A4 両面)
- ・ 資料 15 演習用事例資料一式 (T 氏) ★
- ・ 資料 15 課題整理総括表 (T 氏) (A4 横 1 ページ) ★
- ・ 資料 16 平成 28 年度介護予防活動普及展開事業 試行的研修会 アンケート (A4 両面 1 枚)

<グループごとに配布>

助言者の発言例

(模造紙 2 枚)

(サインペン (黒赤))

-----ここまで事前配布

<昼食休憩中に配布>

- ・ 資料 13 課題整理総括表 (W 氏) (A4 横 1 ページ) ★

注) ★印の資料は、研修会終了後に回収。

4. アンケート結果

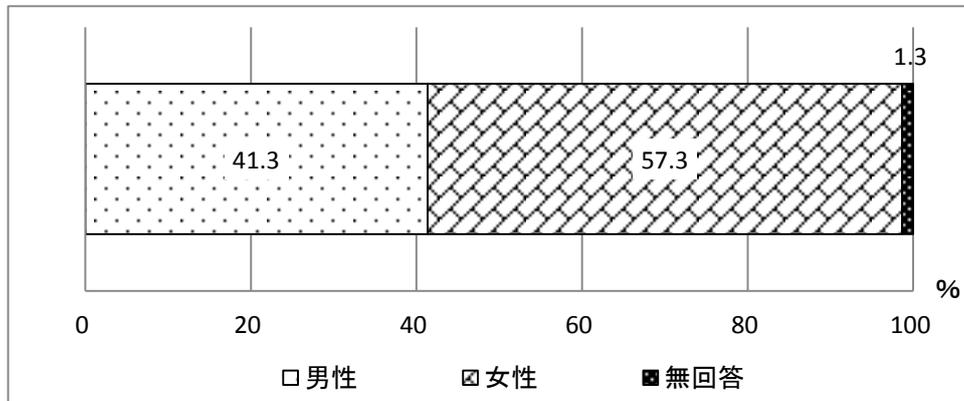
(1) 試行的研修会参加者の基本情報

① 参加者の性別

参加者の性別をみると、女性が6割弱、男性が4割強であった。

図表 13 参加者の性別

| | 人数 | 構成比(%) |
|-----|----|--------|
| 男性 | 31 | 41.3 |
| 女性 | 43 | 57.3 |
| 無回答 | 1 | 1.3 |
| 総計 | 75 | 100.0 |



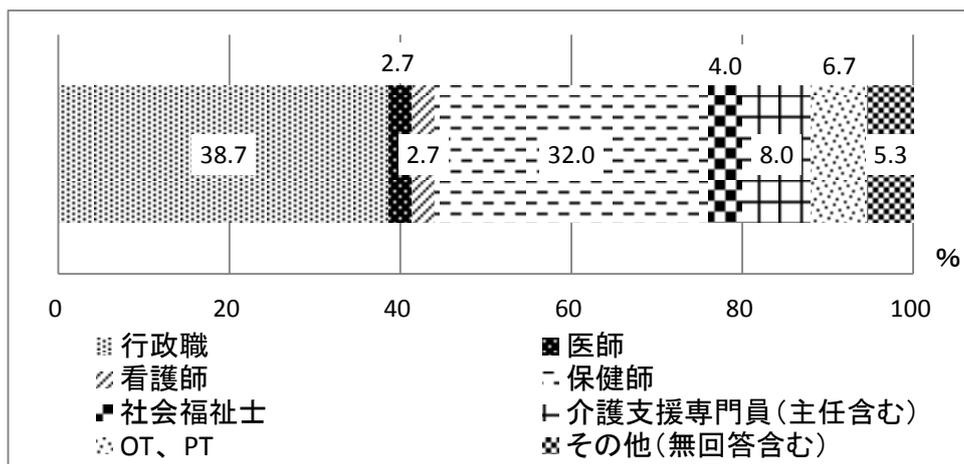
② 参加者の職種

参加者の職種は、「行政職」が38.7%、「保健師」が32.0%、「介護支援専門員(主任含む)」が8.0%であった。

また、参加者の所属自治体別の職種は、都道府県では「行政職」が45.0%、「保健師」が40.0%であり、市町村では、「行政職」が32.4%、「保健師」が23.5%、「介護支援専門員(主任含む)」が17.6%であった。

図表 14 参加者の職種

| | 人数 | 構成比(%) |
|---------------|----|--------|
| 行政職 | 29 | 38.7 |
| 医師 | 2 | 2.7 |
| 看護師 | 2 | 2.7 |
| 保健師 | 24 | 32.0 |
| 社会福祉士 | 3 | 4.0 |
| 介護支援専門員(主任含む) | 6 | 8.0 |
| OT、PT | 5 | 6.7 |
| その他(無回答含む) | 4 | 5.3 |
| 合計 | 75 | 100.0 |



図表 15 参加者の所属自治体別職種

| | 都道府県 | | 市町村 | | その他 | | 合計 | |
|---------------|------|--------|-----|--------|-----|--------|----|--------|
| | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) |
| 行政職 | 18 | 45.0 | 11 | 32.4 | - | - | 29 | 38.7 |
| 医師 | 1 | 2.5 | 1 | 2.9 | - | - | 2 | 2.7 |
| 看護師 | - | - | 2 | 5.9 | - | - | 2 | 2.7 |
| 保健師 | 16 | 40.0 | 8 | 23.5 | - | - | 24 | 32.0 |
| 社会福祉士 | 1 | 2.5 | 2 | 5.9 | - | - | 3 | 4.0 |
| 介護支援専門員(主任含む) | - | - | 6 | 17.6 | - | - | 6 | 8.0 |
| OT、PT | 1 | 2.5 | 4 | 11.8 | - | - | 5 | 6.7 |
| その他(無回答含む) | 3 | 7.5 | - | - | 1 | 100.0 | 4 | 5.3 |
| 合計 | 40 | 100.0 | 34 | 100.0 | 1 | 100.0 | 75 | 100.0 |

(2) 試行的研修会参加者の感想

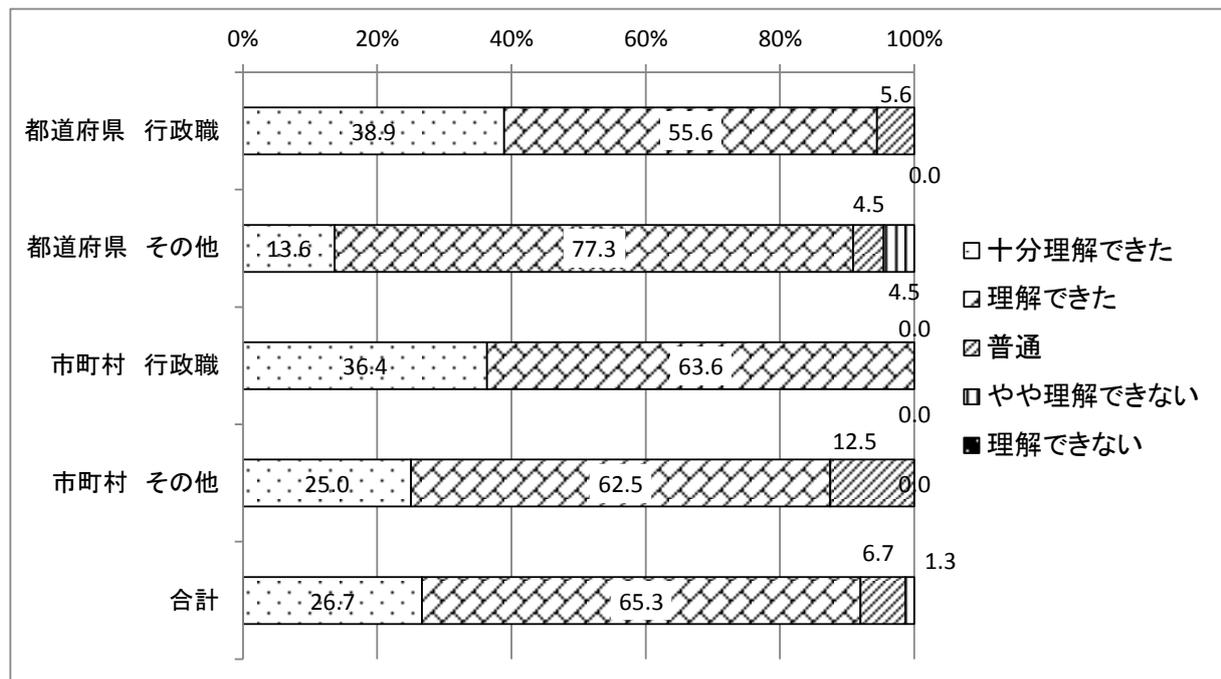
参加者の感想については、参加者の所属自治体と職種から、都道府県の行政職とその他、市町村の行政職とその他（所属自治体がその他の1名は、市町村のその他に含めた）に4分割して集計を行った。

① 講義「保険者（自治体）機能と地域ケア会議のあり方について」

講義「保険者（自治体）機能と地域ケア会議のあり方について」の理解度をみると、全体では、「理解できた」が65.3%と最も多く、次いで、「十分理解できた」が26.7%、「普通」が6.7%、「やや理解できない」が1.3%であった。

図表 16 講義「保険者（自治体）機能と地域ケア会議のあり方について」の理解度

| | 十分理解できた | | 理解できた | | 普通 | | やや理解できない | | 理解できない | | 合計 | |
|----------|---------|--------|-------|--------|----|--------|----------|--------|--------|--------|----|--------|
| | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) |
| 都道府県 行政職 | 7 | 38.9 | 10 | 55.6 | 1 | 5.6 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 18 | 100.0 |
| 都道府県 その他 | 3 | 13.6 | 17 | 77.3 | 1 | 4.5 | 1 | 4.5 | 0 | 0.0 | 22 | 100.0 |
| 市町村 行政職 | 4 | 36.4 | 7 | 63.6 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 11 | 100.0 |
| 市町村 その他 | 6 | 25.0 | 15 | 62.5 | 3 | 12.5 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 24 | 100.0 |
| 合計 | 20 | 26.7 | 49 | 65.3 | 5 | 6.7 | 1 | 1.3 | 0 | 0.0 | 75 | 100.0 |



[自由記述]

【都道府県 行政職】

〈役に立った〉

- ・ 和光市の取り組みと概要について、理解することが出来た。
- ・ 内容が分かりやすかったです。地域ケア個別会議の推進には、保険者として覚悟を決めて取り組む必要があると感じています。
- ・ 自立支援の考え方や、ポイントが分かりやすく市町村への説明時の参考にしたいです。
- ・ 介護保険法の本質に自立支援型地域ケア会議の要素が全て詰まっていることを改めて認識しました。
- ・ 地域ケア会議という言葉に最近では振り回されていた自分ですが、先生のお話で少し楽になった気がします。県としての役割をもう一度見つめ直してやっていきたいと思えます。

〈進め方について（時間）〉

- ・ 行政（保険者）として考え方をきちんと整理していく必要が重要と感じた。もう少しゆっくりと具体的に話が聞きたかった。

〈不安点〉

- ・ お話を聞いた時にはなるほどと思うと同時に和光市のように展開ができるのか不安に思った。

〈その他〉

- ・ 地域ケア会議における状態の把握（因子分解）、アセスメント、関連性・生活機能評価と支援計画表の課題の整合性。
- ・ 介護保険事業計画などマクロな政策の視点は個々のケアマネジメントのミクロ的な支援が大事。

【都道府県 その他】

〈わかりやすかった〉

- ・ ミクロな支援とマクロな政策の関係が整理できた。
- ・ ケア会議における専門職役割の再認識ができた。
- ・ 介護予防に対する地域ケア会議のあり方が理解できた。処遇困難事例の地域ケア会議との差違も明確となりました。
- ・ 介護予防のための地域ケア会議を市町村として実施する意義について理解が深まりました。介護保険事業計画の基本方針を達成するためにいかに地域ケア会議を有効に使うか、という視点がわかりました。
- ・ 司会者の役割が大きく、力量が必要と思った・自立支援型ケア会議のイメージがわいた。
- ・ 部長のお話しは大変よくポイントを押さえた内容であった。

〈難しかった点〉

- ・ 介護予防のための地域ケア個別会議の開催目的がわかった…ように思う。難しかった。
- ・ 大まかには理解できたが、今までの踏まえて取りかかるべき部分については市町に伝えることは難しい。

〈気づいた点〉

- ・ 本来の地域ケア会議を、進行していくには、自治体の取り組む姿勢が重要であると思った。住民の理解を得る働きかけも大事であること。
- ・ 介護保険法の本質、マクロの政策・ミクロの支援など基本を忘れずにしたいと思えます。
- ・ 県としてどのようにすすめていくのかということをしっかり考えていきたい。

〈今後の希望〉

- ・ 今後、本県でもモデル事業に取り組む市町村が増やせればと考えていますが、そのために、モデルに取り組むメリット、市町村は具体的に何をし、何をしてもらえるか、もう少し知りたかった。

〈不安な点〉

- ・ 各市町で地域ケア会議はすでに開催しているので、この様式の一連の説明等今後していかないといけないのは不安。市町がモデル（H29）手をあげなければ県がすべて伝達していくのは不安である。

【市町村 行政職】

〈役に立った〉

- ・ 毎回受講するたびに新しい気づき、こうしたらいいとのアイデアをいただくことが出来ました。
- ・ 保険者（自治体）として、地域ケア会議に取り組む理由を学ぶことができました。今後、事業計画への反映が必要になります。また、住民の方への説明、保険者としての姿勢を示すことも考えていきたいです。

〈気づいた点〉

- ・ 別の地域ケア会ギから政策実現につなげる制度・道筋のようなものを早急に確保しなければならないと感じた。
- ・ 介護保険法の本質を理解した上でケア会議を行うことが重要であると改めて気づかされた。
- ・ マクロとミクロの視点をもって取り組む必要性を感じました。
- ・ 「マクロの政策とミクロの支援」について本町でどのように展開していくのかという気づきがありました。
- ・ 高齢者保険福祉計画の基本理念に、きちんと「本市のめざす方向」を位置づけること。あたり前のことですが、けっこう軽視してきたかと思いました。

〈疑問点〉

- ・ 本市では、計画担当、介護保険課、高齢福祉、包括（直営基幹型）は同じ室にありながら、縦割りなので、自立支援型の会議の推進にあたっては、ガイドラインにあるとおり、担当者は会議に出席するべきだと思いました。和光市さんは会議確立されたと思います。本日の部長のお話では「ケアプランの応援」とおっしゃっておられ、その通りだと思ったのですが、地域のケアマネジャーの話をきくとどうしても印象がよくないのです。部長の話はよく理解できたのですが、行政と地域の多職種のズレや、すき間があるのはなぜなのかと思いました。

【市町村 その他】

〈わかりやすかった〉

- ・ わかりやすくてスーっと頭に入りました。法的なことを自分の言葉で説明していただき理解しやすかったです。

〈自立支援の重要性について〉

- ・ 自立支援の必要性を計画に反映させていくことが重要だと感じました。
- ・ 自立支援のための地域ケア会議の目的などはよくわかった。
- ・ 自立支援、重度化防止に向けたケア会議の重要性。

〈保険者について〉

- ・ 保険者がどのようなことを考えながら地域ケア会議を開催していることが分った。
- ・ 保険者として、地域ケア会議にどのように取り組むべきか、その手法を含めて、大変

参考になった。

- ・ 保険者機能と包括の立ち位置について非常に共感する所が多かった。（直営包括としての難しさを感じている所でしたので…）
- ・ 保険者機能において、市民への啓蒙活動の重要性を痛感いたしました。栄養口腔について、生活の場でセットとして必要だと改めて理解できた。
- ・ 今後、保険者としての機能をしっかりと示していけるよう、市の職員（内部）で検討していきたい。

〈気づいた点〉

- ・ 結果ばかりを求めるのではなく、必要性を検討した過程で不必要なサービス等を適正化し、本人の生活に属したサービス・支援を行う事が重要と感じました。
- ・ 栄養摂取については、高齢者になるまでの過程における生活習慣の要素が大きい。こちらからの働きかけやアドバイスを理解、共感していただく努力が必要と感じました。
- ・ 和光市の評価表は、わかりやすく本人にも説明しやすいツールになっていると思う。第2条、第4条に関して確かにきちんと目的を持って説明できていただろうかと考えさせられた。
- ・ 理解はしたのですが、介護保険課、地域包括ケア課、高齢支援課が一つになってあたって行かないと…自分が旗を振らないといけないのだということが、わかりました。
- ・ 地域ケア会議が、介護保険事業計画の政策の核になってくるのだと思った。
- ・ 効果的なケア会議の必要性が再確認できた。
- ・ 個別の「生活課題の解決」をめざし市全体の在宅の限界点アップを図り、具体的に計画につなげること。

〈これからの課題について〉

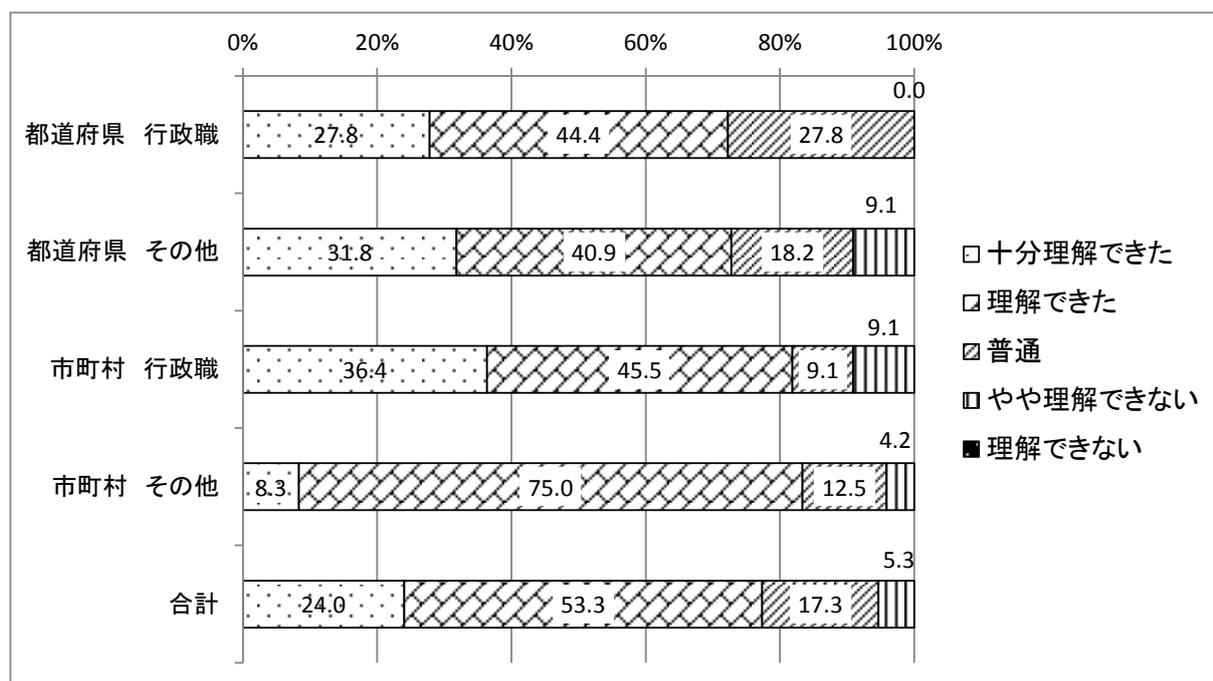
- ・ ケアマネジメント適正化事業でほぼ同じ事をしている。今回「地域ケア会議」という名称を用いているが、何でもかんでもケア会議で、包括が疲弊してしまうのではないか。
- ・ ケア会議のあり方について、ケアマネジャーさんの理解、協力が必須であるが、ケースがあがってこない状況も多々ある中でこれから伝え広めて行くためにどうするか考えていきたい。

② 演習 1（介護予防のため課題抽出）～演習 2（地域ケア会義前の準備）

演習 1（介護予防のため課題抽出）～演習 2（地域ケア会義前の準備）の理解度をみると、全体では、「理解できた」が 53.3%と最も多く、次いで、「十分理解できた」が 24.0%、「普通」が 17.3%、「やや理解できない」が 5.3%であった。

図表 17 演習 1（介護予防のため課題抽出）～演習 2（地域ケア会義前の準備）の理解度

| | 十分理解できた | | 理解できた | | 普通 | | やや理解できない | | 理解できない | | 合計 | |
|----------|---------|--------|-------|--------|----|--------|----------|--------|--------|--------|----|--------|
| | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) |
| 都道府県 行政職 | 5 | 27.8 | 8 | 44.4 | 5 | 27.8 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 18 | 100.0 |
| 都道府県 その他 | 7 | 31.8 | 9 | 40.9 | 4 | 18.2 | 2 | 9.1 | 0 | 0.0 | 22 | 100.0 |
| 市町村 行政職 | 4 | 36.4 | 5 | 45.5 | 1 | 9.1 | 1 | 9.1 | 0 | 0.0 | 11 | 100.0 |
| 市町村 その他 | 2 | 8.3 | 18 | 75.0 | 3 | 12.5 | 1 | 4.2 | 0 | 0.0 | 24 | 100.0 |
| 合計 | 18 | 24.0 | 40 | 53.3 | 13 | 17.3 | 4 | 5.3 | 0 | 0.0 | 75 | 100.0 |



【自由記述】

【都道府県 行政職】

〈進め方について（時間が短かった）〉

- ・ 説明の時間が短く、あわただしく感じた。アセスメントが一番最初で、重要な所でもあると思うので、来年度からの研修ではいい説明を希望します。会議前の準備は誰の立場で考えるのかきちんと説明があると良かった。イメージは良くつかめたと思います。
- ・ 生活機能評価表について、もう少し時間をかけてご説明いただいた方がよかったです。（同じテーブルの方で数名が混乱していました）
- ・ 時間が少なく個人ワークの実施方法の理解がないままだったのでうまく進められなかった。H29の研修では、もっと時間をかけてやれば理解が進むと思う。

〈気づいた点〉

- ・ 個人因子・環境因子の整理と課題へのヒモづけが客観的な事実の積み上げによる課題抽出となることが分かりました。
- ・ 個人因子・環境因子など、事前にしっかりと整理しておかないと会議当日には何も成

果が出ないものになってしまう、ということが身にしみて感じました。

- ・ 因子分解をチームで行うことで、自らが気づかなかった面を気づくことができた。
- ・ 県内での統一が重要、共通化が必要と思いました。
- ・ 書類の関連性について、当初は理解が深められなかった。個人ワークを進めていくなかで、関連性について理解出来るようになった。
- ・ 生活機能評価表等については、もっと反復して回数を重ねる必要があると感じました。

〈難しかった点〉

- ・ 実際に会議を行ったことがないので、資料に慣れるのが大変だった。

【都道府県 その他】

〈役に立った〉

- ・ 各市町の地域ケア会議の内容について県としては何も知らないと思った。保険者の状況（開催状況）の把握をしていきたい。
- ・ ケース情報を読みこみ、因子の書き出し、課題の抽出を実際にやってみることで、かなりイメージが湧きました。
- ・ アセスメントの視点（因子分解）。

〈知りたい点〉

- ・ 地域ケア会議の実際の運営について、もう少し詳しく聞いてみたいと思った。周知の方法や、出席者の入れ替えなど。
- ・ アドバイザー等から出された意見を、プランに反映するための司会者のスキル等をどうすれば向上できるか、知りたいところです。

〈気づいた点〉

- ・ 当日までのアセスメント（準備）をいかに簡単な様式でやっていくことが今後の市町、事業所への説明にも必要だと感じた。
- ・ 個人の情况及び環境状況を整理し阻害因子と固定の必要性を理解できた。

〈難しかった点〉

- ・ 日頃、プランを立てておらず、見る機会も少ないので、理解できても実践が難しい。実践している市町が感じる疑問はハードル高いと思われるし、本日の内容だけでは支援困難。
- ・ 状況や因子から課題を抽出する流れは概要がわかったが、実際に行うのは非常に難しかった。
- ・ 資料よみこみスピードに慣れていないこともあり、少しついていけない感ありました。

【市町村 行政職】

〈役に立った〉

- ・ 実際の事例についての案件検討になり参考になります。また、他のグループの意見も聞くことが出来、まさにOJTの場として活用できました。
- ・ 今、実際に取り組んでいるところなので、様式の意味を再確認することができました。今後、会議前に自分なりにまとめて、会議に臨みたいです。また、ケアマネジャーや事業所へも、改めて説明する必要があると感じました。
- ・ 進行する者が事例のイメージができていないと、会議がうまく進まないと思った。個人因子・環境因子・課題を、箇条書きにすることでわかりやすかった。資料を読み込むのは、慣れるしかないのかなとも思いました。

〈気づいた点〉

- ・ 多職種が参加することもあり、資料は多いが必要性のある物だと再認識した。
- ・ 生活機能評価の予後予測・個人因子・環境因子課題が関連していることに改めて気づ

きました。

- ・ 資料から読みとることが難しく、そこからの予測も大事だと感じた。
- ・ 事前準備の読み込みについて情報量が多く、力量が必要だと思いました。
- ・ 課題抽出時の場面設定について、記入内容が細かく書いてあると分かりやすいかと思いました。

〈不安な点〉

- ・ 市町村の担当は、異動等で変わるので、いきなり因子の分析や生活機能評価をするのは難しいのではないかと。でも、担当を研修している間にも、地区ケア会議は開催しないといけない。
- ・ まだ、個人因子・環境因子・課題をどのように整理したらよいかピンときません。

〈難しかった点〉

- ・ 個人因子・環境因子→課題整理の作業が非常に難しい。

【市町村 その他】

〈進め方について（早かった）〉

- ・ 早すぎて…理屈は分かったような。
- ・ あわただしくてどの資料をみてどう演習すればいいのかまごつきましたが、どうにか理解できました。
- ・ 個別の因子を、分析することで効果的かつ具体的計画と実践につながるということ。→もう少し、しっかり時間をかけた方が良いと思います。事例（ここだけで1日しっかりやった方がよいのでは。）をどう見る、という意味では、重要だと思うので。

〈役に立った〉

- ・ 課題抽出の手法、整理についての考え方について、理解を深めることができた。
- ・ 生活機能評価を初めてつけた。慣れるまでに少し時間がかかった。また因子分解という考え方も最初はとまどいが多かった。実際にグループワークで模擬をして少し理解できました。
- ・ こんなに一所懸命、介護予防サービス・支援計画表を作ったのは久しぶりです。初心に戻って地域ケア会議をやっていかなきゃいけないと思いました。

〈気づいた点〉

- ・ 地域ケア会議を開催するにあたり、司会者がケースの課題と予後予測を行ったうえで会議にのぞむ必要があるのだと感じました。
- ・ 事前準備の必要性と重要性について、気がつきました。これから何をしたら良いのか、まだまだ整理も理解も不足している中で、今、できる事から始めていきたいと思った。
- ・ 埼玉県モデルとして、H29年度～ケア会議がスタートするが、まず予防の視点をもって頂くことが、かなり重要であることを再認識した。
- ・ ケアマネジャーやサービス事業所の意識改革がないと、うまく作用しないのではないかと。コントロールする保険者の力量とその継続性が求められる。
- ・ エンパワメントを無視してしまいがちになってしまい、課題ばかりを重視してしまう傾向があるが本人の能力維持、向上という部分をもっと重視しなくてはいけないと思う。
- ・ 因子分解の大切さ、重要性。
- ・ アセスメントの様式を事業所に周知する必要があることを再認識しました。
- ・ あくまで自立支援に資する会議であること。進行役、個人因子、環境因子とその課題抽出に整合性があることを確認すること。人物像のイメージ化が重要であること。

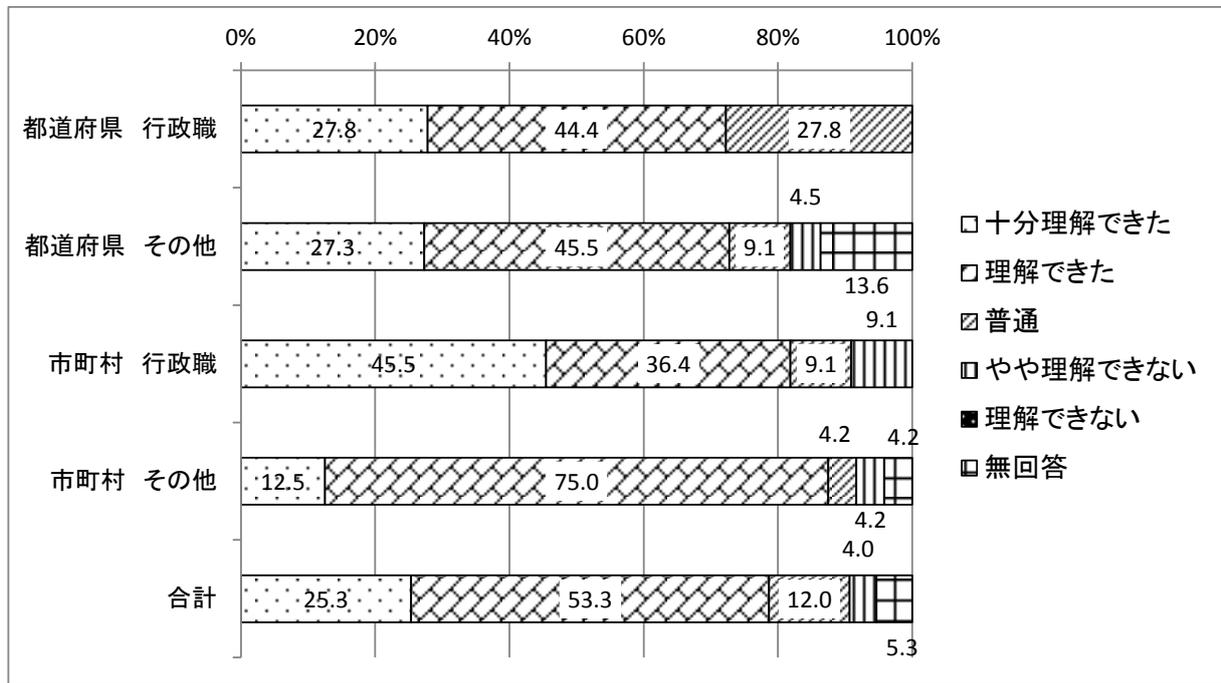
- ・ これまで、介護保険申請の必要のない方と思われる方への支援が実は必要なのだと感じました。
 - ・ 資料を事前に読みこみポイントをおさえていく準備は大変だと思うが、そのことなくして当日の会議の成功はないだろうと思った。
 - ・ 個人因子、環境因子を適格に抽出し、問題点、課題を詳しく、つきとめる。
- 〈不安点〉
- ・ 事前準備がすごく大変だと思いました。関係者に事前に資料を送付したり、担当者で打合せをしたり…。今の業務の中でできるのか不安があります。

③ 演習 3 (地域ケア 会議当日 〈模擬会議〉)

演習 3 (地域ケア 会議当日 〈模擬会議〉) の理解度をみると、全体では、「理解できた」が 53.3%と最も多く、次いで、「十分理解できた」が 25.3%、「普通」が 12.0%、「やや理解できない」が 4.0%であった。

図表 18 演習 3 (地域ケア 会議当日 〈模擬会議〉) の理解度

| | 十分理解できた | | 理解できた | | 普通 | | やや理解できない | | 理解できない | | 無回答 | | 合計 | |
|----------|---------|--------|-------|--------|----|--------|----------|--------|--------|--------|-----|--------|----|--------|
| | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) | 人数 | 構成比(%) |
| 都道府県 行政職 | 5 | 27.8 | 8 | 44.4 | 5 | 27.8 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 18 | 100.0 |
| 都道府県 その他 | 6 | 27.3 | 10 | 45.5 | 2 | 9.1 | 1 | 4.5 | 0 | 0.0 | 3 | 13.6 | 22 | 100.0 |
| 市町村 行政職 | 5 | 45.5 | 4 | 36.4 | 1 | 9.1 | 1 | 9.1 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 11 | 100.0 |
| 市町村 その他 | 3 | 12.5 | 18 | 75.0 | 1 | 4.2 | 1 | 4.2 | 0 | 0.0 | 1 | 4.2 | 24 | 100.0 |
| 合計 | 19 | 25.3 | 40 | 53.3 | 9 | 12.0 | 3 | 4.0 | 0 | 0.0 | 4 | 5.3 | 75 | 100.0 |



【自由記述】

- 【都道府県 行政職】
〈司会者の役割について〉
- ・ ある程度、シナリオにそって行かたがただったが、自立に導くような、具体的な視点を踏まえた助言が助言者に出来るのか、司会者に回しが出来るのか、気になった。

- ・ 司会のトータルコーディネーターがほんとに大事であるが、そのための知識が必要だと感じました。
- ・ 司会者の力量や、参加者の能力も一定のものを、求められる。専門職の研修もしっかりやっていたらなければならない。
- ・ 自分が司会役をやったときには、どのように進めて、どうまとめるのか全くわからなかったが、部長さんのロールプレイで少しイメージができた。コーディネーターがとても重要だと思った。

〈専門職の役割について〉

- ・ 悪化したらこうなるということをやアマネジャーも含めて共有することの大変さがわかりました。
- ・ 司会者、保険者、専門職等が各々の役割をしっかりと果たせば、良い地域ケア個別会議になると思います。（司会者、専門職の養成が必須ですが…）
- ・ 普段はやったことのないケアマネジャー役を行ったが、思った以上に多くの情報をケアマネジャーが把握し、さばいていることを実感しました。

〈良かった点〉

- ・ C班のロールプレイがみられたのは良かったです。
- ・ 会議のイメージはとても良くもてた。司会者のまとめ方のポイントやコツが分からなかったので説明があればよかった。
- ・ 慣れていなくて、とまどう所もありましたが、実際に模擬会議として経験できて、自分にはプラスでした。

〈難しかった点〉

- ・ 地域ケア会議に出席することはあっても、傍聴ばかりだったので、実際に参加して情報の読み込みやサービスの優先度のつけ方が難しいと感じました。

【都道府県 その他】

〈役に立った〉

- ・ 今年度より市で取り組んでいるスタイルと方向性はまちがっていないことが確認できたので、今回のエッセンスをつけ加えて、今後は事業所もまきこむ施策を考えていきたい。
- ・ 実際に模擬ケア会議を体験することで、ケア会議の流れやタイムスケジュールの感覚がつかめました。また、最後の公開ケア会議がまた勉強になりました。
- ・ 生の会議が見られたのでイメージしやすかった。

〈気づいた点〉

- ・ 多くの情報をもとに、生活機能評価から改善できる課題を明確にし、総合的課題、目標、支援計画を調整していく力が必要であると思った。
- ・ 実際の会議進行する司会者の力量のアップの必要性和各事業所の理解の必要性。
- ・ 司会の運び方が重要であると思った。専門職の助言も、知識や漠然とした意見ではなく、実行できそうな具体的なアドバイスが求められていることが分かった。

〈難しかった点〉

- ・ もう少し理解を深めないとわからない。
- ・ 医師会の役割と医師の関与がわかりづらかった。

〈知りたかった点〉

- ・ 頭ではわかりイメージは湧きましたが、もう少し詳しいシナリオが欲しいと思いました。
- ・ 半年後の評価をどのようにやっておられるのか見たかった。
- ・ どうすれば適格な意見や質問を出せるファシリテータを育成できるのか。

〈その他〉

- ・ 専門職向け手引きに期待します。

【市町村 行政職】

〈司会者の役割について〉

- ・ 司会者は、課題の確認、それをどう支援に反映するのか非常に難しい役割だと思いました。模擬会議のようなことを積み重ねたいです。
- ・ 司会役のまとめ方が非常に難しい。特に専門職のアドバイスをもらっても、誰がいつまで、どのようにするかを指示することができる気がしない。いかに落としどころをうまく見つけるかの訓練が必要。
- ・ 部長のコーディネート、大変勉強になりました。ケアマネジャーとしての発表も、大変端的で明確で勉強になりました。発表の仕方を本市の包括にも見せてあげたいと思いました。
- ・ グループワーク、ロールプレイに引き続き、同一ケースの地域ケア会議を部長コーディネートで演じて見せてくれたので、大変勉強になった。

〈役に立った〉

- ・ 役割が与えられたとはいえ、事業所として発言が求められること、実際どのように感じるのか少し体験できてよかったです。
- ・ 他の職種が体験できたので、勉強になりました。
- ・ 改めてファシリテートの重要性を感じる事が出来ました。モデル自治体になるとファシリテート研修が受けられるという事、目指していければと思います。

〈わかりにくかった点〉

- ・ ワーク、何をしないといけないかの説明がわかりにくかった。ケアマネジャーのすべきことを自分たちでもやってみる、というのは、いいことだけど、すべきことをきちんと言わないといけない、ということも言ってほしかったです。

〈気づいた点〉

- ・ 事前に資料を読みこんで、個人因子、環境因子を把握し、落とし所を想定しておく必要があると思います。準備をしても思い通りにはいきませんが、何度も取り組んで慣れていきたいです。
- ・ 事例のイメージができていたら、当日はスムーズに進むのではないかと。当日の資料に必要なアセスメントツールの開発も必要だと思った。

【市町村 その他】

〈役に立った〉

- ・ トレーニングが必要であると痛感しました。課題解決の優先順位。
- ・ テンポよく、資料の大切さ、学びました。
- ・ 実際に体験したことで理解が深まった。

〈時間が足りなかった〉

- ・ もう少し模擬会議をする時間があってもよかったかもしれません。グループのメンバーの立場が様々だったので少しやりにくかったです。当日の司会者の役割についてももう少し説明がほしかった。

〈役割について〉

- ・ 要点をおさえながら短時間で会議をすすめていくためには、司会者の役割は非常に大切だと実感しました。ただそれをできる人材をどう育てていくかが課題です。
- ・ 司会、コーディネート役は大変だと思いました。コーディネート役をするためには経験をつんで自信をつけていきたいと思いました。

- ・ 司会、助言者の具体的な発言がどういったことを学ぶことができました。この内容を教えて頂くと、司会、助言者ともモデリングしやすいです。
 - ・ 具体的なケア会議の流れを体験でき地域ケア会議に参加する職種ごとの視点や役割について理解が深まったと思う。
- 〈今後のスキルアップについて〉
- ・ 緊張感をもって模擬をすることができました。実際にこんな風にはうまくいかないとは思いますが、がんばろうと思います。
 - ・ 短時間で事例を読み込み、内容を把握して会につなげていくことの難しさがあると感じた。ケアマネジャーや各事業所のスキルアップもめざしてやっていきたいと思う。
- 〈不安な点〉
- ・ 司会は誰でもできるわけではない、流れは分かってもできそうにない。
 - ・ 事前準備の重要性が進行をするうえで欠かせないと思った。ケアマネジャーとしてのアセスメント力不足もとても感じました。
- 〈疑問点〉
- ・ 初回だと、栄養面については、本人、家族からの聞きとりしか情報がない場合が多いのではないかと？食事についての生活習慣への提案が実行に結びつきにくい場合があるのは、どうしたらいいか。
 - ・ 本人にとって優先すべき課題がわかりやすい場合は良いが、複雑にからみあっている場合の、優先順位のつけ方などがわかるとやりやすいと思いました。
- 〈気づいた点〉
- ・ 生活支援コーディネーターとして知識や必要性を十分に把握したうえで必要性等の確認を行う。

④ 本事業で作成中の「市町村向け手引き（案）」へのご意見掲載して欲しい視点等

【自由記述】

【都道府県 行政職】

- ・ 会議後のモニタリング、評価、住民への普及啓発の部分をより充実させていただきたい。又地域課題を発見して行政が具体的に解決した事例等を充実させていただきたい。
- ・ 生活機能評価の記載の方法（評価の仕方）をもっと詳しく掲載してほしい。
- ・ 電子データで提供して欲しい。都道府県レベル、市町村レベルで加工できるようにして欲しい。
- ・ 様々な地域ケア会議のあり方を掲載してほしい。その上で自立支援型のメリット機能等を詳細に掲載していただけるとうれしいです。
- ・ 国が作成した課題整理総括表の評価の記入例も付けてほしい（和光市の生活機能評価表は分かりやすいが、課題整理総括表も解説してほしい）。
- ・ 未定稿でも良いので、他の手引きもいただきたい。（構成もなく全くイメージができなかったの。）

【都道府県 その他】

- ・ 関係者間での規範的統合が重要であることは強く書いてほしいです。
- ・ 来年のモデル事業は、和光市のような方針で展開していくのでしょうか？手引きを読んで勉強させていただきます。
- ・ よみ切れませんでした。
- ・ 様式一式市町村等を対象とした研修の進め方。

【市町村 行政職】

- ・ 事業所の協力義務様式の統一横のつながりの必要性（課を越えて）。
- ・ 司会役のまとめ方が非常に難しい。特に専門職のアドバイスをもらっても、誰がいつまで、どのようにするかを指示することができる気がしない。いかに落としどころをうまく見つけるかの訓練が必要。
- ・ 書式に対する見解を示していただければと思います。

【市町村 その他】

- ・ 持ち帰り熟読させていただきます。
- ・ 住改時、福祉用具貸与購入時のリハ職の意見の義務化うまくいかないケース、順調に行かなかったケースのモニタリングー再アセスメントー再プラン。低所得者への支援（口腔、栄養面の支援、説明）。
- ・ 市民向けの啓発のためのパンフレット等発行又は例示をしていただきたい。
- ・ ケア会議対応の医師意見書の必要性（予想される課題解決策に対するかかりつけ医の意見）。
- ・ 多職種の連携では、医師への連携がむずかしい（敷居が高いなど）ときいているので、何かアドバイスのようなものがあればよいかも。
- ・ 3で記しましたように、司会～助言者の一連の内容の事例集があれば、わかりやすいです。参考にさせていただきます。

⑤ 研修全体を通しての感想

【自由記述】

【都道府県 行政職】

〈良かった点〉

- ・ 模擬会議を見ることができてよかった。

〈今後の希望について〉

- ・ もっと説明の時間を増やして欲しいです。（かけ足で途中ついていけなかった）研修自体も複数回各ブロックでの実施を希望します。
- ・ 生活機能評価は、和光市の独自様式だけど、市町村で活用するのは、自由に使わせてもらって良いのでしょうか。出来るようにして欲しいです。
- ・ 良い研修だったと思います。できれば、1年に1回ではなく、何度か開催していただければありがたいです。

〈知りたかったこと〉

- ・ 予防会議はもちろんだが、それと関連したトータルの取組についての話も伺えればと思いました。
- ・ 都道府県の役割について示唆して欲しかった。

〈時間が短かった〉

- ・ 研修の内容はとても参考となったが、全体を通じて時間が短かった。一つ一つの内容をもっと理解するためにはもっと時間が必要。

〈不安点〉

- ・ 模擬会議があったことで、よりリアルに今後の介護予防に資する地域ケア会議のビジョンが見えた。一方、司会者のファシリテート能力とそれに対応できるケアマネジャーが、全市町村で同じように存在して、本当に横展開できるのか不安になった。

〈今後の進め方について〉

- ・ 実際を開始した市の方のお話では、回を重ねるごとケアマネジャーが成長したとのお話だった。最初は反発があるかもしれないが、しっかり進めていきたい。
- ・ 最初介護予防のためのケア会議のイメージが全くできておらず、介護予防の担当だからと出席した。ケア会議の担当者とも共有したい。
- ・ 県としても、こうした環境面を整えながら1つでも多くの、市町村が実施してもらえよう努めたいと思います。
- ・ こういった研修を続けてスキルを上げていかなければならないと思いました。

〈気づいた点〉

- ・ ケア会議のケース提供者であるケアマネジャーに理解してもらい助言を活かしてもらうためには、分かり易い説明、確立したケアの知識の伝達が不可欠と考えます。
- ・ 内容自体は分かりやすかった。一方で今後研修を進めていく上で、完全に和光市スタイル（生活機能評価表）で進めていくのか、研修内容の整理が必要。

【都道府県 その他】

〈地域ケア会議の進め方について〉

- ・ 地域ケア会議の具体的な進め方を知ることができました。
- ・ 地域ケア会議を具体的にどのように進めていくかがよく分かりました。ありがとうございました。
- ・ 実際に地域ケア会議の場に参加することがないため、グループワークの模擬会議が難しかった。
- ・ 介護保険担当課とまずは相談していきたい。
- ・ 介護予防のための地域ケア会議についてよく理解できました。あとは、市町村で実践にうつせるように、手厚い支援が必要だと感じました。

〈気づいた点〉

- ・ 各専門職がケア会議に入り、専門的な助言ができるよう、司会者の役割が大変重要だと感じています。
- ・ 生の地域ケア会議を見学することで地域包括ケアが実施する地域ケア会議のイメージを持つことができた。「自立の視点」を、予後予測をわかりやすく伝えることが、大事だと思った。

〈今後の課題〉

- ・ 地区医師会へ介護予防展開事案の必要性を理解していただくための方策を考える。
- ・ 今後どのように市町村で拡げていくのかやらなければならないと思っていますが、人材不足もありこれからの課題です。

〈知りたいこと〉

- ・ 国実施の基礎研修会を多くの会場（北陸）で開催してほしい。地域ケア会議と生活支援・総合事業をすべて含めた研修会ノウハウを教えてください。
- ・ 和光市モデルを広げていくのか、各市町のやり方をどう組みこんでやるのかを考えていきたい。

〈その他〉

- ・ 模擬ケースで、実際使用する資料（回収した資料15）がほしいです。個人情報にふれず、何かよい形で提供をご検討下さい。

【市町村 行政職】

〈勉強になった〉

- ・ コーディネーターの役割は、制度の理解と、イメージする力が必要かと思います。和

光市さんは、先に進めた苦勞もあったと思います。この形を作るまでの市町村の努力は見習いたいなと思いました。

- ・ すごく勉強になりました。住民意識の変化をどうするか。周知の重要性を感じております。今後も、ご指導いただければありがたいです。
- ・ 模擬会議ではあったが、和光市の部長、担当の会議が見られて勉強になりました。
- ・ ファシリティの重要性を改めて感じました。
- ・ 模擬の会議も含めて、とてもスピーディーな研修でした。内容も盛りだくさんで疲れしました。埼玉県でも同内容の研修を開催していただいたので2回目でしたが、より理解を深めることができたと思います。こういった研修は、回数を重ねることが大切だと思いました。

〈良かった〉

- ・ 他県他市の方と情報交換でき、勇気づけられました。

〈気づいた点〉

- ・ 自立支援地域ケア会議をツールのひとつとして、包括ケアを構築するという概念は理解できたが、実践するとなると、うまくいくかどうか。専門職だけでなく、行政職を巻き込んで、作っていかねばならないと感じました。

〈その他〉

- ・ 朝、空調がききすぎて暑かった。資料がたくさんあるのに机が狭くてとてもやりづらく、いらいらした。集中できなかった。改善してほしい。

【市町村 その他】

〈時間が足りなかった〉

- ・ もう少しゆっくりと学習できる時間があればと思いました。
- ・ 時間的に余裕がありませんでしたが、本番では1ケース20分程度ということですので今からトレーニング必要だと思いました。貴重な機会をお与えいただき、ありがとうございました。
- ・ 短い時間でやむを得ないと思うが、作業の手順のところ当初とまどいを感じました。
- ・ 時間が足りなかったと思います。もっと、具体的に学びたかったです。（開催までの流れや、必要書類、開催時気をつけること、開催後の評価のしかた…e t c…）←手引書に書いてあるのでしょうか？
- ・ 遠方からの参加でしたので、2日間くらいかけてゆっくり研修ができれば良かったです。次年度にもう一度研修に参加したいと思います。ありがとうございました。

〈良かった点〉

- ・ 大変、勉強になりました。完全に総合事業に移行する際に利用者が困らないように支援していかねばと思います。
- ・ 今すでにモデル事業をしているところもあり、詳しく話を聞けてとてもよかった。
- ・ アセスメントの重要性を再確認。予後予測の必要性。
- ・ 保険者としての責任で「自立支援」をやっつけていかねばと再確認しました。市ならではの施策化も検討していきたいです。

〈今後のスキルアップについて〉

- ・ これから目指して行くものは何となく見えたような気がしています。包括の言う通りに…ではなく地域のため、利用者のために、自分達ができる事を探していきたいと思いました。
- ・ 今後の活動に役立てたい。
- ・ 大変勉強になりました。実践についての難しさはありますが、「やってみる」「続け

る」ことと思います。当市では「生活機能評価票」でなく、「課題整理総括票」を使用しています。どうしたらよいか…悩みます。

平成 28 年度 介護予防活動普及展開事業 報告書

平成 29 (2017) 年 3 月 発行

発行 厚生労働省 老健局老人保健課

事務局 株式会社 三菱総合研究所

不許複製